

有田川水系有田川
河川整備交付金事業
(広域河川改修事業)

伊万里市、有田町

(再評価実施後5年が経過)

位置図



事業目的

流下能力不足による浸水被害が発生

平成2年7月洪水

浸水戸数	55戸	床上浸水	1戸
		床下浸水	54戸



○浸水被害の軽減を図る

- ・ 流路是正、狭窄部解消を実施
- ・ 治水安全度の向上を図る

計画流量 1, 250 m³/s

計画治水安全度 1/50

平成2年7月 梅雨前線豪雨 有田川

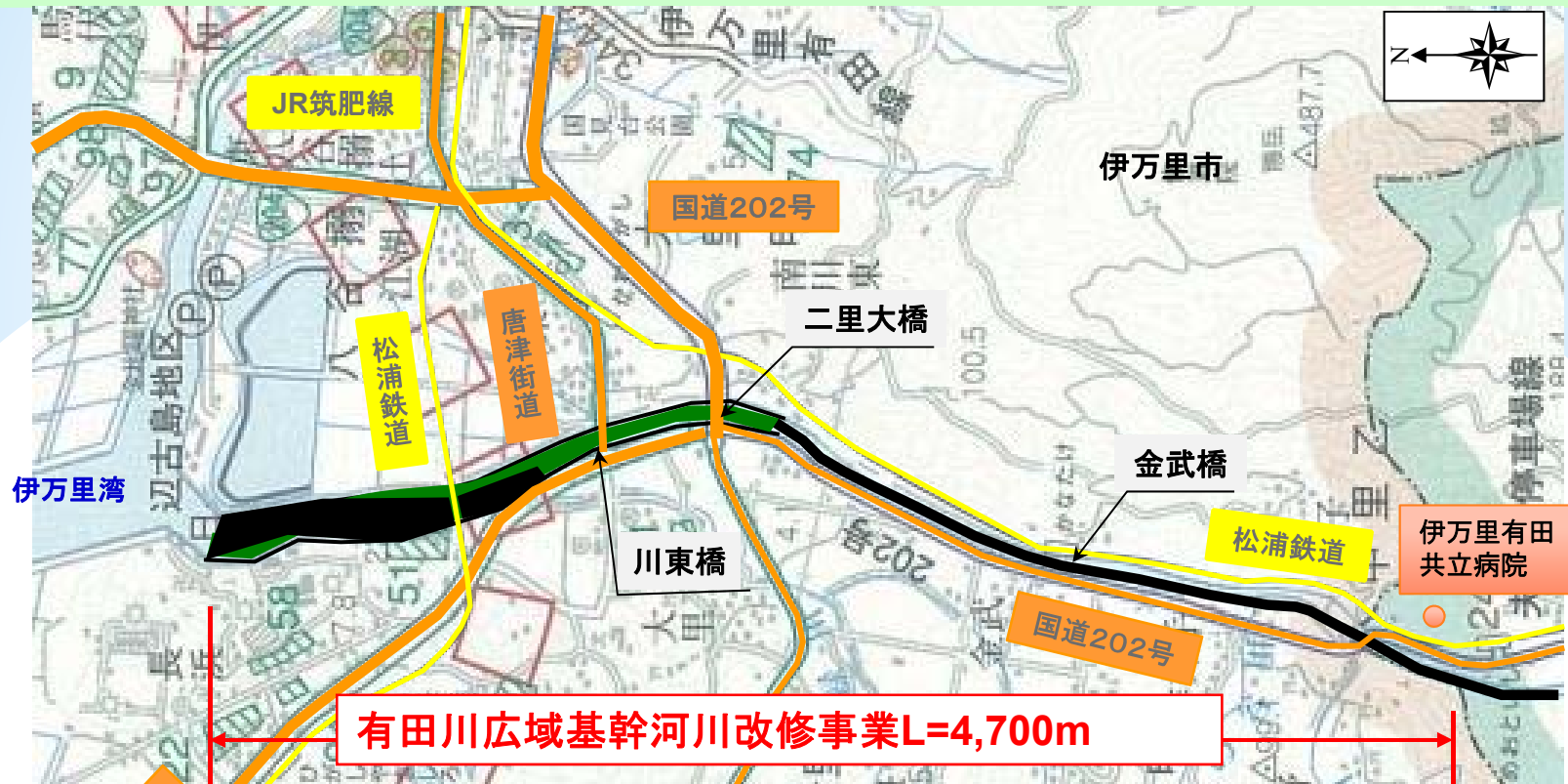
連続雨量716mm 最大日雨量453mm 時間最大雨量75mm



床上浸水1戸
床下浸水54戸



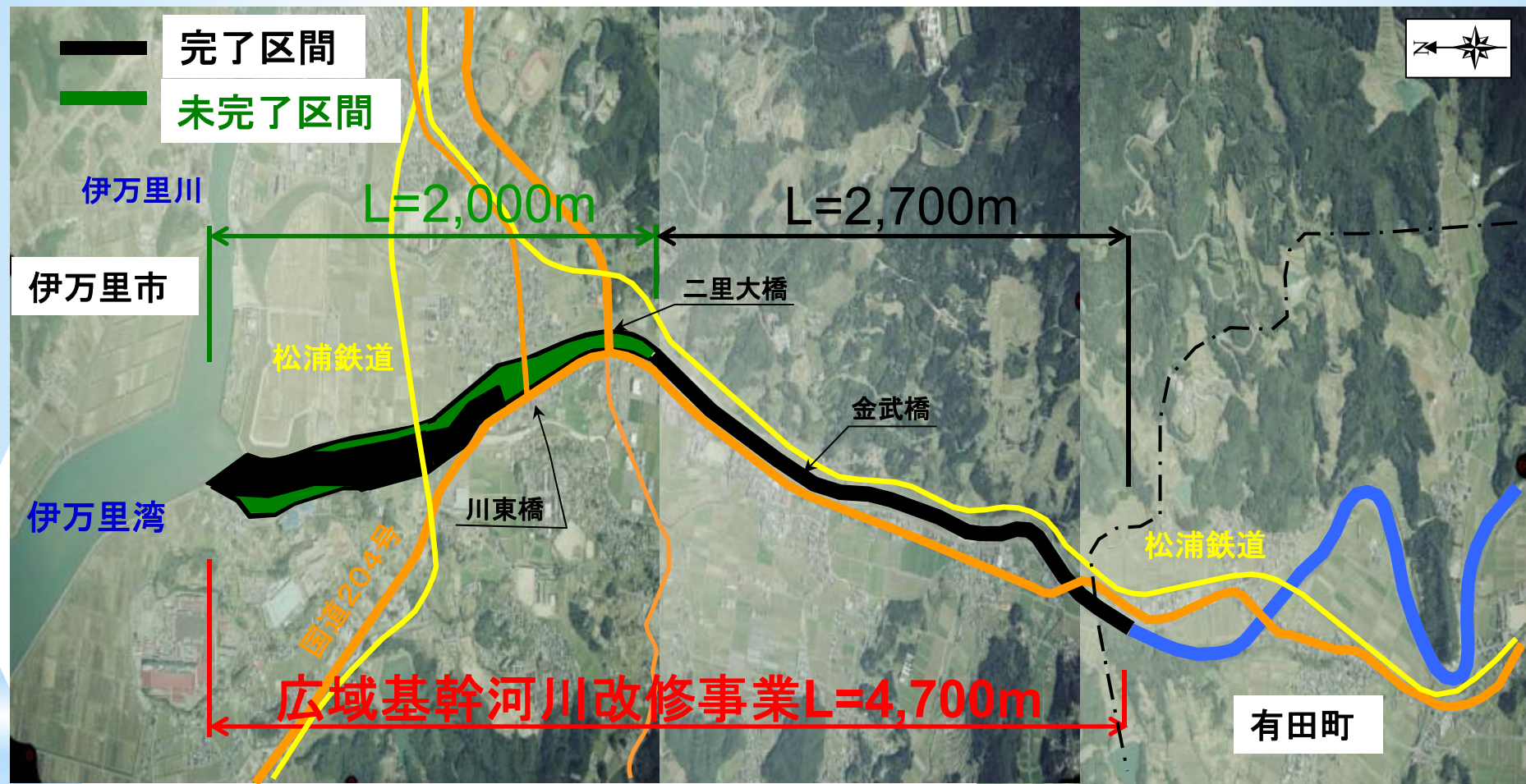
有田川広域基幹河川改修事業 着手年:昭和43年度 事業地:伊万里市、有田町



○事業概要

- | | | |
|---------------------|------------------------------|--------------|
| ・全体事業費
15,400百万円 | ・計画流量 1,250m ³ /s | ・費用対効果 1.005 |
| ・事業期間 S43~H34 | ・計画治水安全度 1/50 | |
| ・改修延長 4,700m | ・掘削・築堤・護岸、
樋管3基、橋梁16基、堰5基 | |

有田川 航空写真



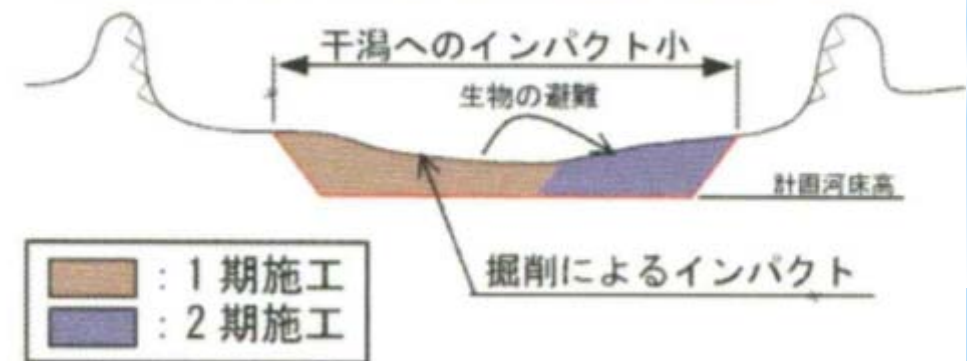
○事業進捗状況

- ・下流部の河床掘削を残し、改修が完了している。
- ・H28年度末進捗率 92%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率 1.0%

上流部完了区間状況



下流部未完了区間状況



環境調査

※有田川下流部は良好な干潟を形成している

○平成16年度 水棲生物調査

多くの魚介類・底生生物の生息を確認
(絶滅危惧種のハクセンシオマネキ等)



○平成17年度～平成28年度

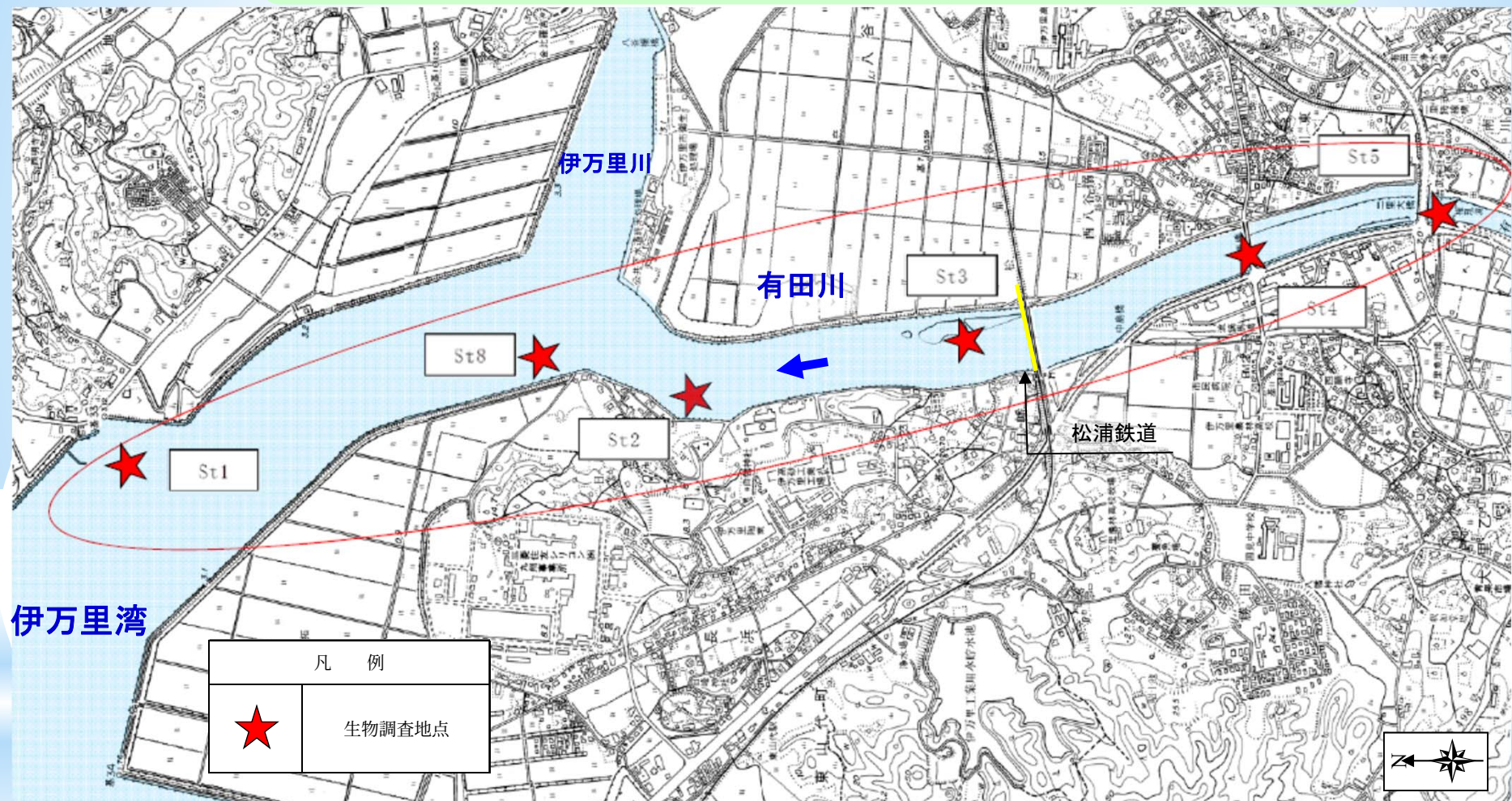
掘削を施工しながら生息状況を調査

(掘削前後の比較では、個体数に若干の変化があるが、特に劇的な変化はない)

○平成29年度以降

今後も調査を行いながら、河床掘削を進めていく

生息状況調査(魚類・底生生物)



前回評価時とほぼ同数の種が確認された。

事業を巡る社会情勢等の変化

○氾濫区域内の土地利用について、平成24年度以降の大規模開発や宅地造成は確認されない。

○伊万里市全体の人口は減少傾向である。

費用対効果の要因の変化

要因の変化はほとんどなく費用対効果はほぼ同値

総費用額C: 治水施設の整備及び維持管理に要する費用
(建設費、維持管理費(※事業完了後50年間))

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる総便益額(被害軽減額)

・一般資産被害(家屋、事業所等)	18,687百万円
・農作物被害(水稻、畑作物等)	6百万円
・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁等)	31,656百万円
・間接被害(事業所の営業停止被害、清掃費用等)	1,628百万円
・残存価値	625百万円

総費用C: 52,347百万円

総便益B: 52,602百万円

⇒ 費用対効果

$$B/C = 52,602 / 52,347 = 1.005$$

コスト縮減や代替案等の可能性

- コスト縮減

建設発生土の有効利用（埋立地）により、総合的なコスト縮減を図っている。

- 代替案の検討
特になし

対応方針(事業課案)

河川改修の効果

①治水安全度の向上

②平成2年7月洪水による

床上浸水 55戸

浸水面積 1,170haの軽減

③地域住民の安全・安心な暮らしに寄与

今後の事業展開

・事業を継続し、早期完成を図りたい